

お知らせ

記者発表資料	平成30年10月5日（金）
配布日時	14：00

■同時発表先：島根県政記者会
 出雲市政記者クラブ

平成30年台風第24号に対する 斐伊川放水路と尾原ダムの効果について【速報】

平成30年9月29日（土）3：00から10月1日（月）2：00にかけて、台風24号による影響で、斐伊川流域では降り始めからの流域平均累加雨量が約205mmを記録し、灘分水位観測所等で氾濫注意水位を超過する出水となりました。

今回の出水に対し、斐伊川放水路と尾原ダムを運用することにより、**斐伊川下流（灘分地区）で116cm、宍道湖で26cmの水位低減効果**がありました。

なお、斐伊川放水路への分流は平成25年6月完成以降8回目となります。

※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

斐伊川放水路分流堰付近（9/30 15:30 時点）



斐伊川放水路開削部（9/30 15:40 時点）



＜問い合わせ先＞

国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所

副所長（技）

おきた ひろゆき
沖田 宏之

【担当】管理第二課長

いいだ ひろひで
飯田 博英

0853-20-1754（直通）

〒693-0023 島根県出雲市塩冶有原町 5-1 電話：0853-21-1850（代表）

ホームページURL：<http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/>

平成30年9月台風第24号の出水概要

1. 天気概況

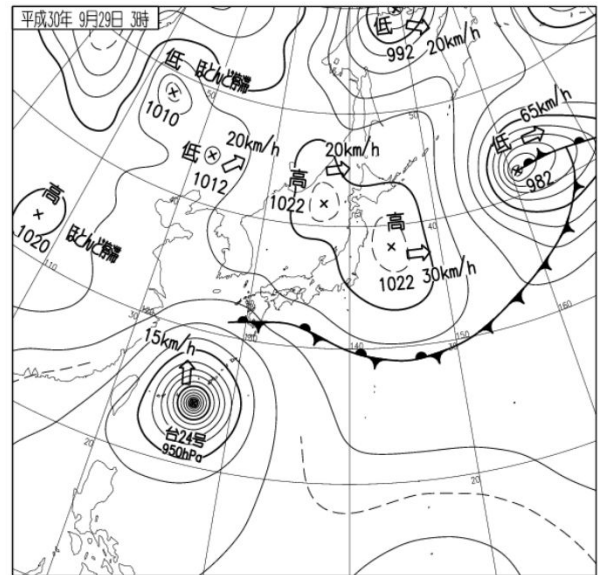
中国地方では、西日本に停滞する前線に向かって、南から流れ込む暖かく湿った空気と上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、島根県東部では9月29日から30日にかけて、ところにより激しい雨が降り続いた。

2. 降雨状況

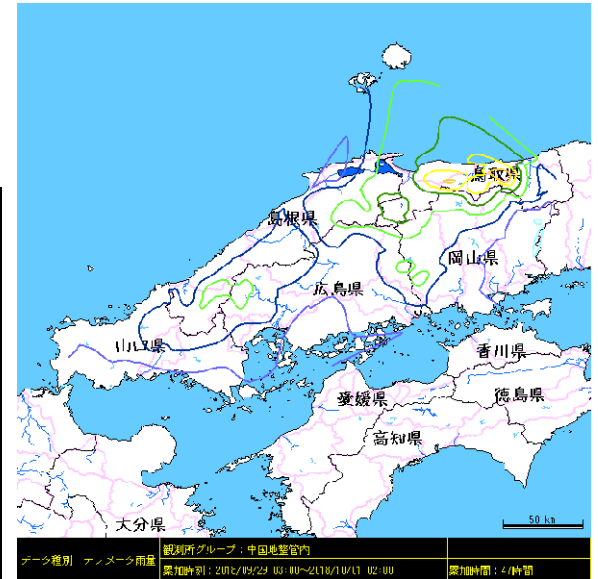
斐伊川流域では9月29日未明から30日の夜半にかけて断続的に激しい雨が降り、9月29日3時から10月1日2時までの降り始めからの斐伊川流域平均累加雨量が205mmを記録した。



■ 実況天気図 (気象庁ウェブサイトより)



■ 等雨量曲線図 (国土交通省作成)



累加時刻: 2018/9/29 3:00~10/1 2:00
累加時間: 47時間

3. 出水状況

木次観測所(28.4k) 平常時



9/30 21:00



新伊萱観測所(24.1k) 平常時



9/30 21:00



灘分観測所(4.1k) 平常時

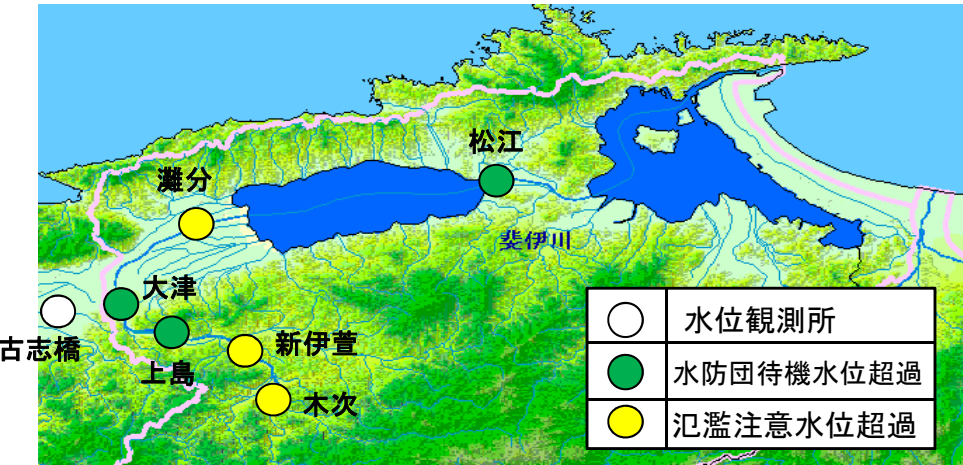


10/1 00:00

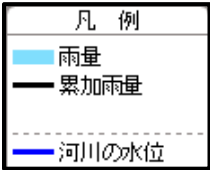


平成30年9月台風第24号の出水概要

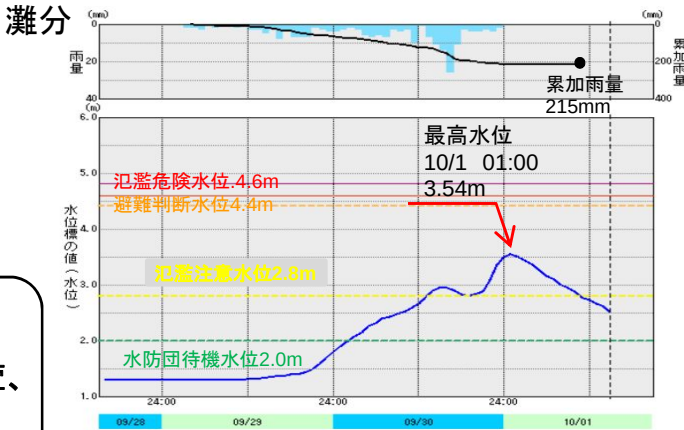
4. 各水位観測所の出水状況(国管理)



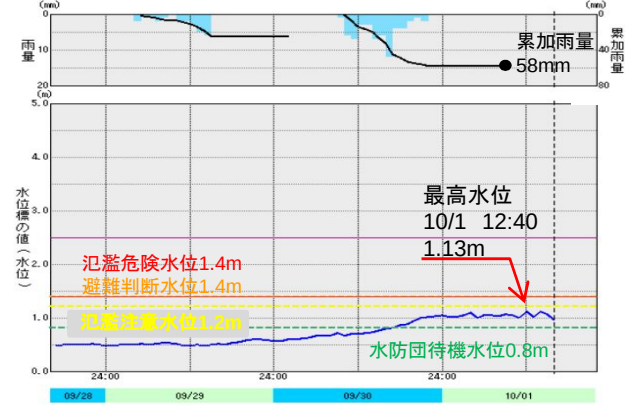
凡 例 計画高水位 氾濫危険水位 避難判断水位 氾濫注意水位 水防団待機水位



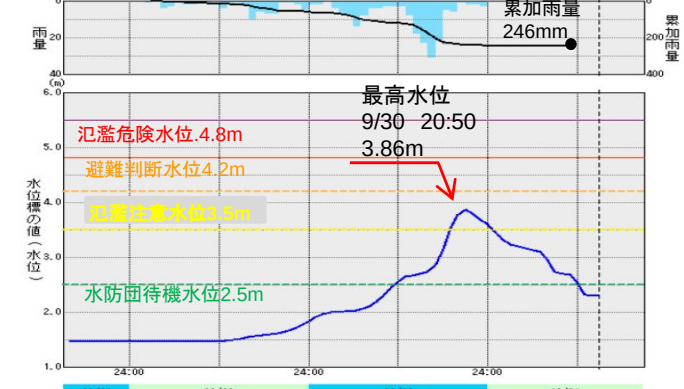
今回の降雨により氾濫注意水位を超えた観測所は、木次、新伊萱、灘分の3箇所。



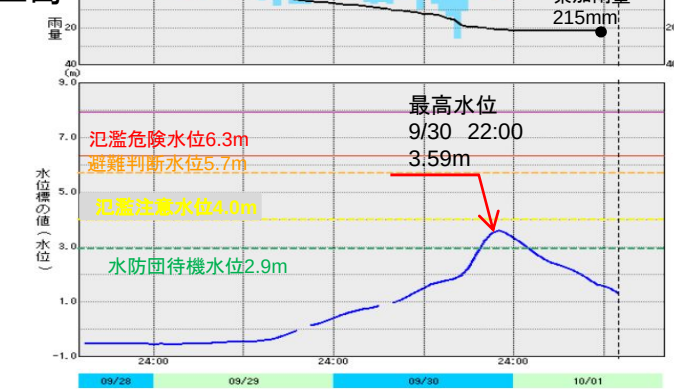
松江(央道湖)



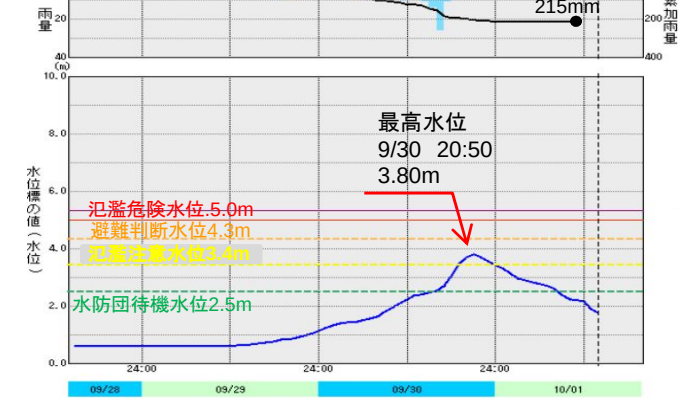
木次



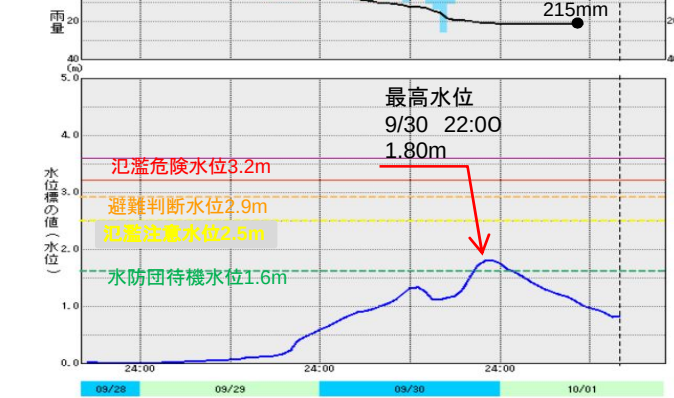
上島



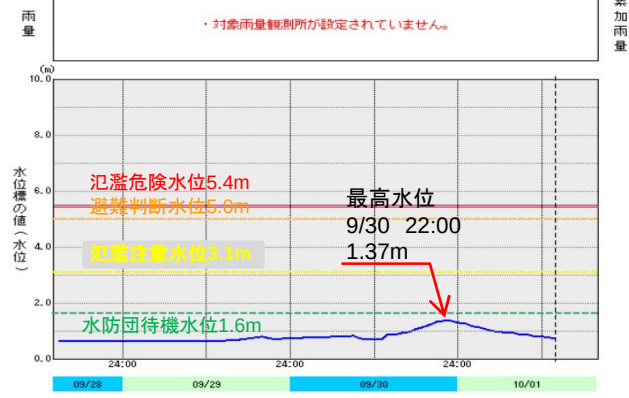
新伊萱



大津



古志橋(神戸川)



平成30年9月台風第24号の出水概要

5. 事務所体制履歴

水防時の河川水位（高潮含む）及び尾原ダム、志津見ダム等の状況に応じて、事務所支部において注意体制、警戒体制をとっております。

日時		体制	理由
9月30日	2時20分	注意体制	灘分水位観測所が水防団待機水位（2. 0m）に達し、さらに水位上昇の恐れがあるため。
9月30日	13時30分	警戒体制	灘分水位観測所の水位が氾濫注意水位（2. 80 m）に達し、なお水位上昇の恐れがあるため。
10月1日	16時00分	注意体制	灘分水位観測所の水位が氾濫注意水位を下回り下降中のため。

6. 水防警報発表履歴

洪水や高潮による災害が発生する恐れがある場合に、水防団などに活動の目安となる水位等の情報を提供しました。

河川名	水位観測所名	待機	準備	出動	指示	待機	解除
斐伊川	木次	9月30日 11時40分	9月30日 17時40分	9月30日 19時10分		10月1日 3時10分	10月1日 8時50分
斐伊川	新伊萱	9月30日 15時50分	9月30日 18時00分	9月30日 19時10分		10月1日 3時10分	10月1日 8時50分
斐伊川	上島	9月30日 19時40分					10月1日 2時10分
斐伊川	大津	9月30日 20時40分					10月1日 2時10分
斐伊川	灘分	9月30日 2時20分	9月30日 12時50分	9月30日 14時30分		10月1日 14時50分	
宍道湖	松江	9月30日 16時10分					
中海	中海湖心						
神戸川	馬木						
神戸川	古志橋						

7. 洪水予報発表履歴

洪水が発生する恐れがある場合に、気象庁と国土交通省が共同で雨量や水位の情報を周知しており、この度の出水で斐伊川では、氾濫注意水位を超え、更に水位上昇の恐れがあったため、**斐伊川氾濫注意情報**を発表しました。

予報番号	種類	発表日	発表時刻	河川名
1	灘分（出雲市）「氾濫注意水位」	9月30日	13時30分	斐伊川
2	灘分（出雲市）「解除」	10月1日	15時10分	斐伊川

参考

レベル	水 位	基準水位観測所における水位の意味 （危険な箇所を設定した以下の水位を、水位観測所地点の水位に置き換えて設定）
5	氾濫の発生	
4 （危険）	氾濫危険水位 （特別警戒水位）	【氾濫危険水位】（特別警戒水位） ・市町村長の避難勧告等の発令判断の目安 ・住民の避難判断の参考になる水位 （水位設定の考え方） 計画高水位若しくは、避難のリードタイムから設定される水位のいずれか低い水位
3 （警戒）	避難判断水位	【避難判断水位】 ・市町村長の避難準備・高齢者等避難開始等の発令判断の目安 ・災害時要配慮者の早期避難 ・住民の氾濫に関する情報への注意喚起
2 （注意）	氾濫注意水位 （警戒水位）	【氾濫注意水位】 ・水防団の出動の目安
1	水防団待機水位	

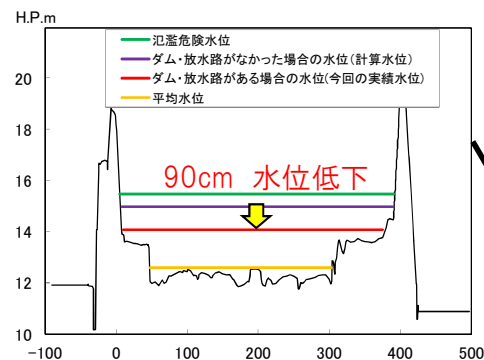
おばら ひいかわ ほうすいろ 尾原ダム及び斐伊川放水路の整備効果

速報

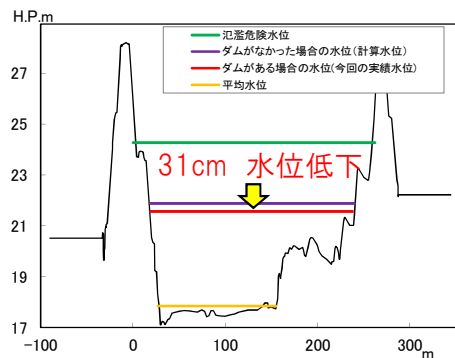
- ・ 斐伊川水系尾原ダムでは、適切な防災操作を行うことで下流の河川に流す水量を最大流入量時で約260m³/s低減し、ダム下流の木次観測所地点で、**ピーク水位を30cm低減させる効果**があったものと推定。
- ・ 斐伊川放水路では、**斐伊川放水路運用開始後、最大の分流量を記録**。(約1,700m³/sのうち、約670m³/sを斐伊川放水路へ分流)
- ・ 斐伊川放水路への分流により、尾原ダムとあわせて、**ピーク水位を灘分地区で116cm、宍道湖で26cm低減したものと推定**。
- ・ **尾原ダムと斐伊川放水路がなければ、灘分地区の水位は氾濫危険水位を10cm超過していたものと推定**。

※「防災操作」とは、大雨などによりダムに流入する洪水の一部を貯水池内に貯め込み、放流量を流入量より小さくしてダム下流の河川に流す操作です。

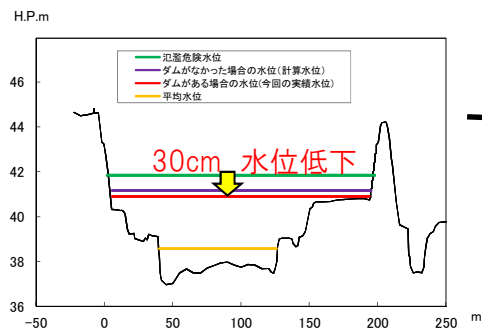
大津



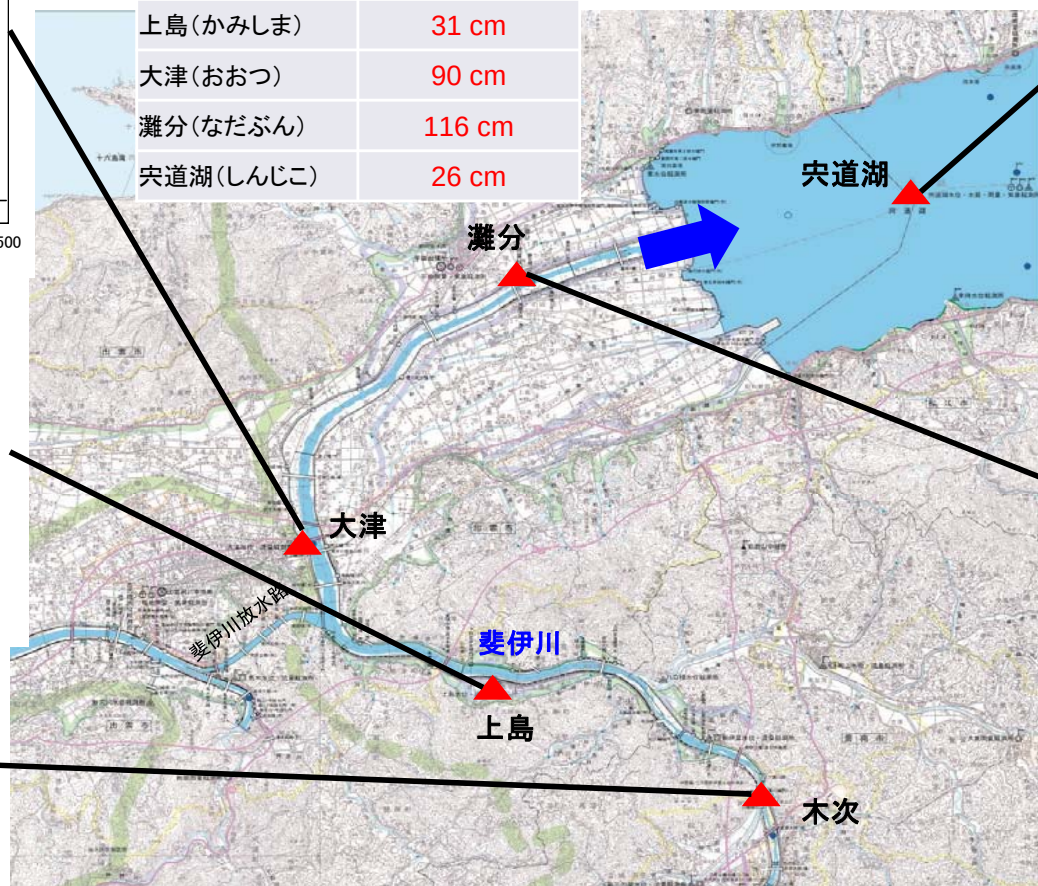
上島



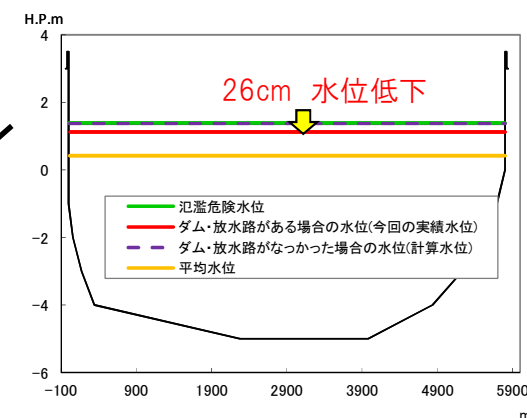
木次



観測所名	ピーク水位低下量
木次(きすき)	30 cm
上島(かみしま)	31 cm
大津(おおつ)	90 cm
灘分(なだぶん)	116 cm
宍道湖(しんじこ)	26 cm

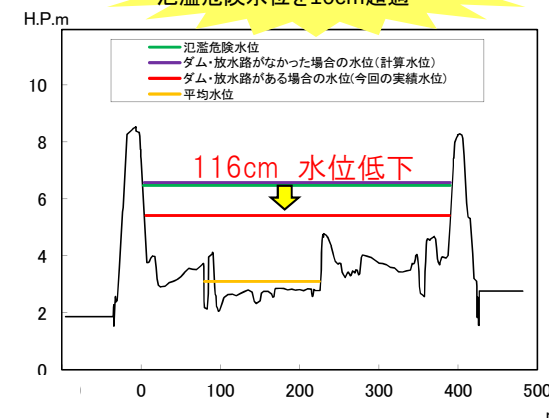


宍道湖



灘分

尾原ダム・斐伊川放水路がなければ、**氾濫危険水位を10cm超過**



※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。
ダムなし、ダム・放水路なしの水位は推定値です。

斐伊川放水路の整備効果（平成30年台風24号）

速 報

○分流堰において、斐伊川本川の洪水の一部を神戸川へ分流し、**斐伊川下流への洪水流量を低減しました。**
なお、今回の分流は**放水路運用後最大の分流量を記録しました。**

＜斐伊川放水路の概要＞

- ◆斐伊川の洪水の一部を神戸川へ分流し、斐伊川下流への洪水流量を低減させるものです。
- ◆昭和56年に事業着手し、平成25年6月に完成しました。

＜今回の出水による斐伊川放水路の運用状況について＞

- 斐伊川の流量増加に伴い、9月30日10時35分頃に分流堰地点で約400m³/sを超え、斐伊川放水路へ分流（自然越流）が始まりました。
- さらに斐伊川本川の流量が増加し、分流堰地点で約500m³/sを超えたため、9月30日12時20分より分流堰ゲートの倒伏操作を開始。
- 10月1日16時00分頃に斐伊川本川の流量が分流堰地点で約400 m³/sを下回ったため、ゲートを起立させ斐伊川放水路への分流が終了。

斐伊川放水路分流堰(9/30 15:30)



斐伊川放水路開削部(9/30 15:40)



平成30年台風24号 による 斐伊川放水路分流状況

H30.05撮影

日本海



出雲市街地

JR山陰本線

南神立橋

分流堰

斐伊川本川

【流量は速報値】				
	分流開始	分流終了	斐伊川本川 (上島観測所) 最大流量	最大分流量
1回目	平成25年 9月 4日 5時30分頃	平成25年 9月 5日 4時10分頃	約1,250m ³ /s	約550m ³ /s
2回目	平成25年10月24日 15時30分頃	平成25年10月25日 23時20分頃	約530m ³ /s	約200m ³ /s
3回目	平成26年 8月17日 12時50分頃	平成26年 8月18日 0時10分頃	約700m ³ /s	約270m ³ /s
4回目	平成26年10月13日 23時45分頃	平成26年10月14日 4時52分頃	約440m ³ /s	越流のみ※
5回目	平成29年 9月17日 22時27分頃	平成29年 9月18日 15時40分頃	約750m ³ /s	約290m ³ /s
6回目	平成29年10月22日 21時30分頃	平成29年10月23日 18時15分頃	約1,200m ³ /s	約470m ³ /s
7回目	平成30年 7月 5日 19時56分頃	平成30年 7月 7日 23時 5分頃	約1,550m ³ /s	約590m ³ /s
8回目	平成30年 9月30日 10時35分頃	平成30年10月 1日 16時00分頃	約1,700m ³ /s	約670m ³ /s

※堰を越流したのみで、ゲートは倒していません。

※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

尾原ダムの整備効果（平成30年台風24号）

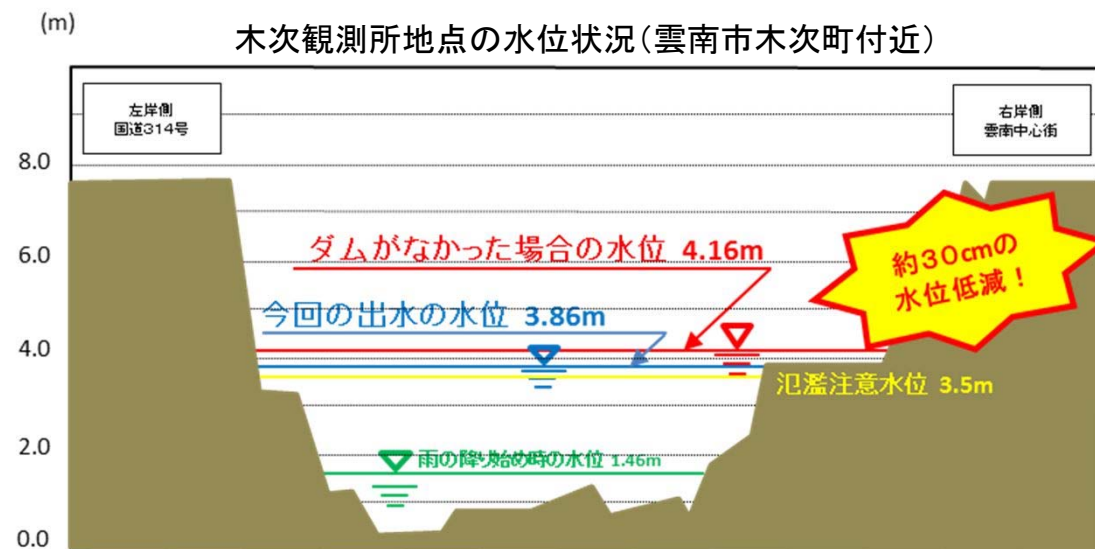
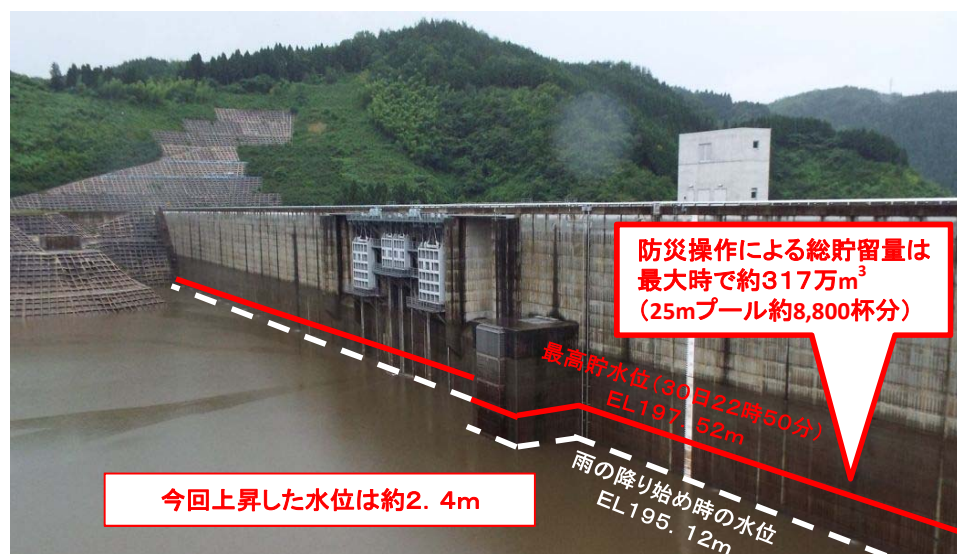
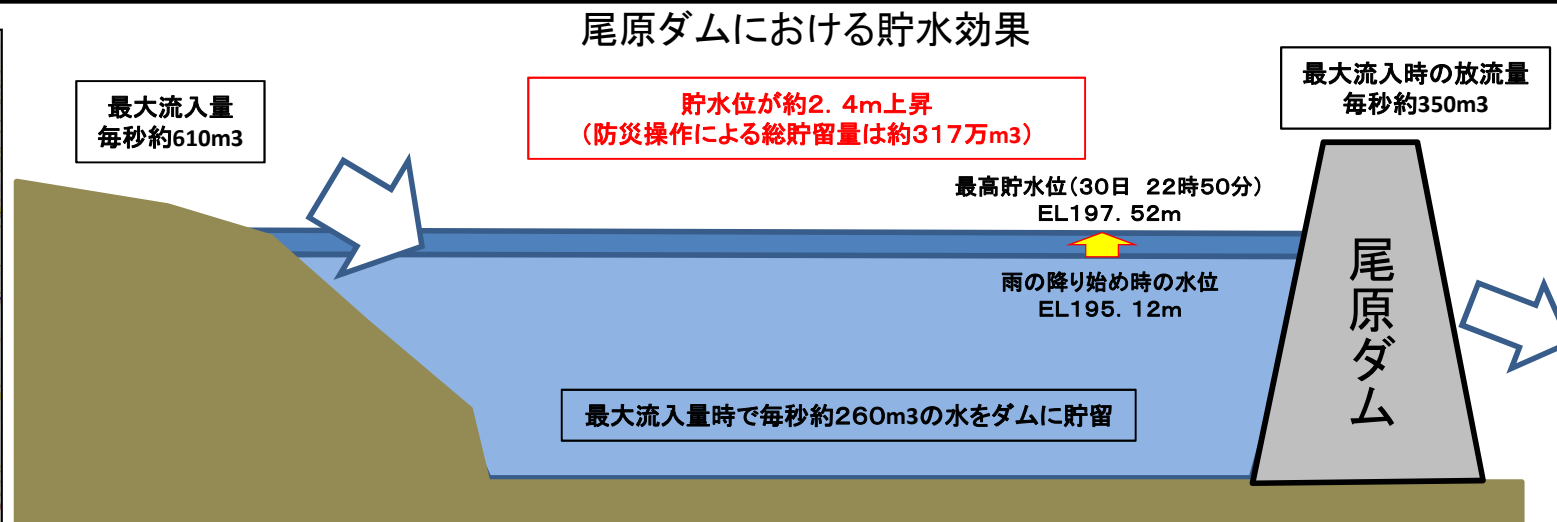
速報

○尾原ダム上流では、流域平均累加雨量230mmを記録。

○今回の降雨によりダムへの流入量が**最大で毎秒約610m³**に達し、このうち**毎秒約260m³**をダムに貯留する防災操作を行いました。今回の防災操作により、ダムに貯留した洪水は**最大約317万m³**（小学校にある25mプール約8,800杯分）です。

○その結果、ダム下流の木次観測所地点（雲南市木次付近）で、**ピーク水位を30cm 低減させる効果**があったものと推定されます。

※プールは、幅12m×深さ1.2m×長さ25m=360m³（立方メートル）で換算



※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。